



SSH 通信



広島大学附属高等学校

SSH 通信作成委員

2026 年度 第 4 号

2026 年 8 月 25 日発行

皆さんこんにちは。2026 年度の SSH 通信作成委員です。この SSH 通信 第 4 号では、1 学期に実施された高校 I 年生の「フロンティアサイエンス講義（数学）」と「イノベティブサイエンス講義 第 2 回」の様子についてお知らせします。

<フロンティアサイエンス講義（数学）：高 I 7 月 22 日（水）>

〔概要〕 フロンティアサイエンス講義では、高 I 生を対象に広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授の木村俊一先生にお越しいただき、「数とゲームと無限大」という題目で講義をしていただきました。我々が当然のように扱っている数や無限について改めて考えると、かなり感覚的に扱ってしまっているという共通認識を持つところから講義は始まりました。「アキレスと亀」など無限大と関わりのあるいくつかのパラドックスを紹介してくださり、無限の概念が扱い方によって様々なパラドックスを引き起こすことを学びました。また、そのようなパラドックスが起こらない新しい無限の概念の可能性を「ゲーム」の概念を用いて講義していただき、当たり前を疑うことの大切さや、数学の奥深さを実感する時間でした。



〔学び〕

- ・ソクラテスの「無知の知」にあるように、我々は知っているようで理解できていないことが多々ある。これは個人にかかわらず、人類の歴史においても言えることだ。数学という分野では、特にそれが顕著である。通常の授業では、その点に気づきにくい。今回の講義で主に扱われた「無限」などは、高校で学習する範囲では到底語りつくせない。その難解な「無限」の世界を歴史的経緯から平易に解説してくださった木村先生の講義には、とても感銘を受けた。
- ・今日の FS 講義では「無限大」と「数のゲーム」について考えました。授業の初めから終わりまで、考えたこともなかったことの連続で、先生がおっしゃったことに驚かされ続けました。例えば、球面上の点が 2 個しかなかったり、様々なパラドックスについて考えたりしました。「数のゲーム」については、難しすぎて私の頭では理解することができませんでした。ただゲームを使うと少しだけ無限大のことが分かりやすくなることが分かりました。無限大の可能性は無限大だなと感じました。

<イノベティブサイエンス講義 第 2 回：高 I 7 月 23 日（木）>

〔概要〕 イノベティブサイエンス講義では、マイクロメモリジャパン株式会社の三笠典章様、株式会社アトモニの栗田康二様にお越しいただきました。三笠様には、マイクロンで勤務することになった経緯、現在の仕事の内容をはじめ、AI がますます発展していくこれからの世界での職業選択の方向性についてもお話しいただきました。栗田様には、ご自分の職歴と年収など実際のデータも公開していただき、数字だけで語りえない「働く」ということの意味を考える時間となりました。また、今後の人生で決断することの大切さ、必要性を自らのご経験に基づいて具体的にお話しいただきました。これからの変化の激しい社会において、働くことの意義を見つめなおし、職業選択の視野を広げる時間となりました。



〔学び〕

- ・栗田さんは決断の重要性を、三笠さんは得意教科と進路の結び付け方を教えてくださいました。特に、栗田さんの年収と幸福度のお話で、年収などの数字だけが幸福のものさしでないことと、三笠さんのマイクロンに入るまでの経緯のお話で、若い頃の興味がそのまま仕事に繋がっていくことを教わり、心に残りました。今後、人生で決断を迫られたとき、数字などの目に見えるものだけでなく、自分の気持ちを大事にして決断していきたいと思いました。

第 5 号では、高校 II 年生の「先端科学実習」や「韓国海外研修」について紹介する予定です。